

第2回大和郡山市子ども・子育て会議
議事録

日時：令和元年9月26日（木）14：00～
場所：大和郡山市役所 議会第2委員会室

1. 開 会

2. 議 題

- ①大和郡山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果の報告
- ②大和郡山市子ども・子育て支援事業計画骨子案の検討
- ③事業量の検討
- ④その他

3. 閉 会

1. 開会

事務局

令和元年度第2回大和郡山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日はご多用の中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。私、こども福祉課の北浦です。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

郵送させていただいた資料として、

- ・ニーズ調査結果報告書
- ・計画骨子案

本日机上配布した資料として、

- ・座席表
- ・「量の見込み」について
- ・大和郡山市子ども・子育て会議の傍聴に関する基準

以上になります。皆さまお持ちでいらっしゃいますでしょうか。

本日は10名の委員の皆さまの参加となり、過半数以上の方にご出席をいただいておりますので、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第2項にもとづきまして、会議が成立する旨をご報告させていただきます。なお、森田委員と勝川委員からはご欠席の旨をご連絡いただいております。本日ご出席いただいております委員の皆さま及び事務局につきましては、お配りしております座席表でご確認願います。また本日、次期第2期計画の策定業務を委託いたしております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所菅原も同席し、ご説明いたします。

公開と傍聴に関してですが、この会議は公開で開催させていただいております。本日傍聴ご希望の申し出の方はいらっしゃいません。開会にあたり会長からのご挨拶をいただき、開始していきたいと思っております。

これからの議事につきましては、大和郡山市子ども・子育て会議条例第7条第1項にもとづき会長の元で進めさせていただきます。生田会長、よろしく願いいたします。

生田会長

皆さま、こんにちは。暑さ寒さも彼岸までといいまして、10月も近づき朝夕晩と少し涼しくなっております。10月1日からいよいよ始まりますと言うと、一般の方は消費税の増税かと感じられるかと思いますが、私たち教育関係者には幼児教育と保育の無償化が始ま

るということです。保育料の無償化は3・4・5歳の子どもたちが対象となり、そういう方々の負担も減るかと思えます。ただ、施設では給食費を独自に集めないとならず、事務が煩雑になったり、事務局の方々につきましてはこの10月の忙しい時に色々な業務が入りますので、大変ご苦労されているのだろうと思っております。

無償化になるということは国が費用を負担するということになります。市町村の中でも負担しなければいけない部分もありますが、その中でいままで市町村が保育料の軽減措置をしています。国から決められた基準の保育料より少し軽減するというので、市町村がそういう財源を含み、保護者の方に保育料が過度な負担とならないように軽減をしてくれています。特に第2子なら1/2、第3子なら無料という措置が取られています。その財源が1/4程度になり、つまり市町村の負担が1/4程度となるかと思えます。この予算の無償化による余剰分については子育て支援に使うよう通知が出ており、今日子ども・子育て支援事業計画を進めていく上で、量の計画等をお話させていただいてみんなで決めていきます。その実現のためにその財源を使っただいて、大和郡山市が子育てをしやすい町となるように期待をしながら見守っていきたいと思っております。

本日はジャパンインターナショナル総合研究所の方にも詳しく調査の結果等をお話しさせていただきます。その結果にもとづいて、皆さんから気になる点やご意見をいただければと思っております。より良い会議となりますように、忌憚のないご意見をいただいて、会議を進めてまいりたいと思えます。どうぞ最後までよろしく願いいたします。

2. 議題

①大和郡山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果の報告

生田会長

傍聴の方はおられないということですので、次第に沿って議事を進めてまいります。

まず、議題①について事務局より説明をお願いします。

事務局

(大和郡山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【結果報告書】にもとづき説明)

生田会長

ありがとうございました。今説明がありましたニーズ調査の結果につきまして、ご意見・ご質問がある方はよろしく願いします。感想等でも結構です。

生田会長

就学前の子どもに対する保護者からの子育てに対しての不安が結構あるのかと今まで思っていたのですが、就学後の保護者の不安の方が多いのかと感じました。自分の子どもも就学したばかりで、最初の感想で思うのですが、就学前の小さい頃子どもたちに「何かをしないといけない」ということはなかったのですが、小学校に入って宿題等やらせないといけないことが増えたり、成績がつくことで周りと比較したりして、我が家を見ても母親の負担が多いのかと思っていたので、この結果からそういうことかと感じました。就学されてからの保護者の不安も考慮しながら計画を立てていかななくてはならないと思います。

そういうこともあり、フルタイムで就業したいという希望があっても就労できない等に影響しているのかと気づかせていただきました。

上田委員

アンケート調査の回答率がかなり高いと思いました。大体普通のアンケート調査の回収率は4割位なので、お子さんをお持ちのお母さん・お父さん方の行政に対しての関心が高いのだと思います。

この5年間の認定こども園の立ち位置が変わってきたように感じます。この辺の調査も今後行政としても注目したいと思います。

内藤委員

校区ごとのそれぞれの調査結果はお持ちですか？校区によってニーズが多分違うのではないかと思うので、そういうところを見ていくことも大事なのではと思いました。

事務局

見ることは可能ですが、サンプル数の関係もあり、校区ごとに細かく分けてしまうと調査結果として信頼を受ける数値とならない部分もあります。今回は自由回答等もあり、どんなご意見が多い傾向にあるかは見ていけるかと思っています。

内藤委員

実際に色々な計画をする時には細かいところを見ていき、問題ないところまで手当てをすることのないよう分類できるようにされた方が良いと思います。

事務局

検討させていただきます。

乾副会長

第1回目の会議で「前回の回収率が40%台だった原因を突き詰めていかないと本当の結果が出てこない」という話をさせていただきましたが、今回の結果を見て嬉しかったです。半数以上の保護者の子どもたちをちゃんと育てていこうという気持ちがここに現れていると思います。

もう一方で、近くに見てもらえる人がいるという方が増えています。ここ5年位ですが、ひとり親家庭が増えている中で、サポートセンターにもおばあちゃんの相談が増えています。お母さんがフルタイムで働いているから子どもの送迎ができない等の依頼が多く、祖父母が子育てしないといけない家庭が数年間で増えてきたのが表に現れていると思います。

多様化した家庭が市内に増えており、実家の近くで子育てできるのが母親には一番心強いと思います。この数は今後も増えていくと思いますし、特に母親がフルタイムで働く場合には、祖父母や行政の支援の形が重要視されるかと思います。

生田会長

他にございませんか。

次の議題②について、事務局より説明をお願いします。

② 大和郡山市子ども・子育て支援事業計画骨子案の検討

事務局

(ジャパン総研より、大和郡山市子ども・子育て支援事業計画骨子案にもとづき説明)

事務局

骨子案の7ページ(6) いじめ・不登校の状況のいじめ・不登校件数の推移グラフで、平成28年度から29年度にかけて、いじめの件数が42件から427件に増えています。これは急にいじめが増えたわけではなく、平成29年度に県より「従来いじめと扱わなかった些細なこと(嫌がらせ等)もいじめとして対処する」という方針が示された結果です。

その上の(5) 児童虐待の状況のグラフでも、平成28年度から29年度にかけて若干増えているのは同じような理由です。児童虐待を重篤化する前に取り上げて、軽いうちに芽

を摘み（究極は未然に防止する）、児童虐待相談で些細なことでも1件としてカウントしていくという方針によるものです。こちらは県から方針が出たわけではありませんが、軽い間に芽を摘み取ることが未然防止を図ることに繋がるという考えにより、相談件数が増えています。

生田会長

ありがとうございました。今説明いただきました骨子につきまして、ご意見・ご質問、あるいはご感想等ございましたらよろしくお願ひします。

往西委員

52 ページの取り組み状況の中で、「ケース会議」の「ケ」が抜けています。

またその下の「塾や学童保育所以外にも過ごすことのできる居場所づくりが必要です」について、確かに必要だと思ひますが、実際にやってみただけれど利用者が少ない現状があるのです。公民館で平日放課後に自由に遊べる取り組みもしていますが、利用がないこともあります。原因は情報が周知できていないためではないかと思ひます。アンケート結果でも公園を作って欲しい等の要望は多くても、利用したという回答は少なかったように思ひます。それも周知不足のためではないかと思ひました。

徐々に行政が取り組んでいる部分を利用したという回答が前回より少しずつ増えており、認知は進んではいるのかと思ひますが、情報提供をもう少し細かくして欲しいです。行政のホームページを子育て世代が見るかどうかも分からないので、情報を周知するための取り組みも施策の1つに入れば良いと思ひます。

生田会長

住民の方への周知ができていないということですか。

往西委員

住民側にも原因もあり（見ないなど）、自治体に参加していない子育て世代も多いです。繋がりも生まれず、恩恵も受けられないという状況が若い世代にはあるのではないのでしょうか。そこを拾い上げられるような取り組みができればと思ひます。

米田委員

桜井市の同じ会議にも出席させていただいています。郡山市の地元に対する満足度がか

なり高いので、すごいと感心しました。地元愛をお持ちの方が多いいのは良い傾向で羨ましく思いました。課題から基本理念や基本方向に関しても素晴らしいです。大事なことをきちんと捉えており、具体的なものだと思います。

アンケートの回収率が7割近かったことも感心し、それだけ関心が高い表れだと思います。しかし、私自身が児童虐待の現場にいた中で、アンケートに回答していない方たちの意見の密度が濃いと感じており、その辺もしっかり見据えていけないといけません。未成年の犯罪や大人の無職者等、社会情勢がそうさせている部分もありますが、やはり幼少期からの教育支援が生きる力に積み重なっていくと思うのです。良い結果となっているところにもそうでない方たちがおり、その方たちの意見を見据えないとなりません。

この基本方向に沿って計画を作っていただければ、少数の方の意見もフォローできるかと思しますので、この方向で頑張って具体的に進めていただきたいと思います。

概ね素晴らしいと思います。同時に、少数の親・子どもに対する応援をいつも見据えた計画として欲しいです。

生田会長

他にございませんか。

次の議題③について、事務局より説明をお願いします。

③ 事業量の検討

事務局

(子ども・子育て支援事業の見込み量算出についてにもとづき説明)

生田会長

今説明いただきました内容につきまして、ご質問・ご意見等ございましたらよろしくお願ひします。

上田委員

第1期の計画の中で見込み量にずいぶん現実と乖離した部分があったかと思いますが、その理由は先ほど述べられた国の計算式と実態が合わないのが原因でしょうか。

事務局

主な原因としてはそれが挙げられます。あとは、想定以上に保育ニーズが上がってきたことが1つの要因として考えられます。

今回は保育ニーズが上がって来たところや、認定こども園の認知もある程度高まってきており、その辺りも踏まえて第1期の乖離よりは納めた形で見込み量を出していきたいと思っています。

上田委員

見込み量というのは実際希望している方に対して、行政がどれだけ用意できるかです。また、器としては用意できるかと思いますが、保育士の不足問題という大きな問題があります。その辺も表現できるのでしょうか。

事務局

見込み量はアンケート回答がそのまま反映されてしまう計算式となっており、現実とは少し外れており、本当のニーズを細かく見ていく必要があります。

また、実際どこまで用意ができるかという部分もあり、その辺りのバランスが取れるよう調整し、最終的な計画に載せていきます。

生田会長

いかがでしょうか。よろしいですか。

また、会議終了後に気付かれた点等ございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。

次回の子ども・子育て会議の日程につきましては、日程が決まりましたら、事務局からお知らせさせていただきます。

では、全ての報告が終了しましたので、司会を事務局にお返しさせていただきます。

3. 閉会

事務局

本日皆さまには慎重にご審議いただきまして大変ありがとうございました。ご質問・ご意見等も多数いただきましてありがとうございました。

なお、本日の内容につきましては、後日、大和郡山市公式ホームページに掲載をさせていただきます。

次回は11月を予定していますが、日程が決まり次第、皆さまにお知らせいたします。その際、資料を事前送付させていただくかもしれませんが、ご覧いただきまして、当日ご意見・ご質問等多数いただけますようよろしくお願いいたします。

本日は、皆さまどうもありがとうございました。